

名古屋最古の寺院「願興寺」

—伝説の道場法師とその末裔—

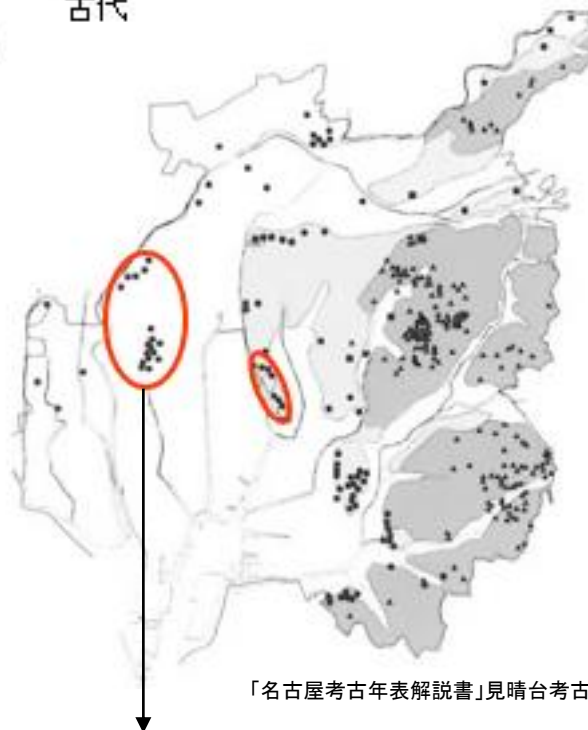
NPO法人 古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク
服部 哲也

1. 名古屋の地形と遺跡の分布

「継続」の台地と「開拓」の低地
縄文時代



古代



「名古屋考古年表解説書」見晴台考古資料館より

2. 願興寺(尾張元興寺跡)

- ・水煙の発見→伽藍の推定を可能とした
- ・畿内とそっくりな瓦→工人がやってきた!
- ・尾張連の氏寺

3. 道場法師

- ・道場法師の「力」は治水工事と水田開発力
- ・八田遺跡群(治田ムラ)と岩塚古墳
- ・ヤマトタケル伝説と式内社
- ・願興寺⇔岩塚間は堤防道路か
→後の馬津-新溝の官道になった可能性

4. その後の願興寺

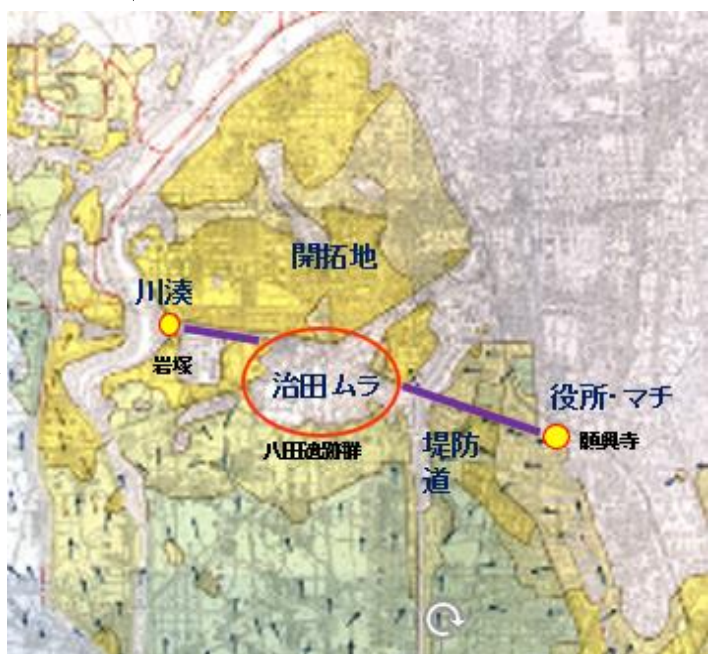
- ・定額願興寺=国分寺として
- ・尾頭次郎の再興→荒廃→移転

5. 鬼頭一族の活躍

- ・新田干拓に尽力=道場法師のDNA

6. おわりに

- ・より広域な水田開発を目指すために



科学技術超資料調査会 伊勢湾台風災害調査報告付図に加筆